



TITLE:

豊沢研究室(<特集>東京大学物性研究所)

AUTHOR(S):

張

---

CITATION:

張. 豊沢研究室(<特集>東京大学物性研究所). 物性研究 1971, 16(1): 32-32

ISSUE DATE:

1971-04-20

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/88229>

RIGHT:

た。過去2年間だけをふり返ってみても、s-d 関係では小川氏（京大）超伝導関係では都築氏（九大），木村氏（金沢大），佐藤氏（東北大），itinerant magnetism 関係では大畠氏（東大），末崎氏（九大），高橋氏（名大）中矢氏（北大）electron-phonon 関係では長井氏（九大）He 関係では碓井氏（名大），恒藤氏（京大）等が半年から一週間程度滞在して我々の研究室の議論に加わっていただきました。

## 豊沢研究室

構成メンバーは，豊沢豊（教授），張紀久夫（助手），大川篤子（技官），住斉（D2），菅野洋輔（D1）の5人で，皆いろいろなことに興味をもっていますが，現時点では，皆の位相がかなりよく揃ってきて，電子格子相互作用の理論的研究を，各々が違った角度から進めています。「励起子スペクトルにおけるフォノン構造，Urbach-Martienssen 則」，「励起子の自縄自縛と光学スペクトル」，「低次元系での電子格子相互作用」，「不純物の光吸収におけるフォノンサイドバンドとそこに現われる Van Hove 特異性の変態」，「不純物の光吸収における Jahn-Teller 効果と外場下での二色性スペクトル」等，光学スペクトルに関係したものが多いのですが，これは豊富な実験データと比較できるということだけでなく，いろいろな型の相互作用から生じる素過程を直接的な形でみるという点において光学スペクトルが優れているためでもあります。この他，「電気伝導における不安定現象」や「誘電体中の荷電粒子の運動」等にも興味が向けられています。

他のグループとの接触はかなり頻繁で，とくに実験家の方々とは物性研の内外を通じて，セミナーや，もっとインフォーマルな討論などにより，互に啓発し合うように努めています。（張）

## 菅野研究室

界面物性という風変りな部門に属し，しかも部屋には分子理論という標札がかけられているが，中味は名前とは関係なく絶縁体結晶（主に磁性体）の分光学をテーマとしている。部門名は研究所創立当時の遺物にすぎず，現在の物性研では研究室が basic vector となり，時の流れに応じて色々な subspace